

【総合的な学習の時間】 第2回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 探究活動のテーマを決めよう

2. 本時の概要

本時は、中学1年生における「総合的な学習の時間」の第2回授業である。本時の前半では、アイスブレイク「ぼくらは建築家」を実施し、指示通りに設計図を描く体験を通して「人の話を集中して聞くこと（梅のかさ）」や「分からないことを質問すること」の大切さを理解・実感させる。

後半では、前回作成した「じぶん観察シート」を用いた相互インタビュー・意見交換会(共有会)を行い、他者からの質問や異なる視点を取り入れて自己の内省を深める。さらに、その成果を踏まえて「マインドマップ」の作成を開始し、自身の興味・関心や好きなこと等を視覚的に広げ・整理することで、今後の探究活動におけるテーマ候補となるキーワードを探る足がかりとする。

3. 本時の目標

- 聞くことと質問することの重要性の理解:アイスブレイク(「ぼくらは建築家」)を通じて、集中して話を聞く姿勢(「梅のかさ」)や、疑問点を主体的に質問することの大切さを理解・実感する。
- 他者との対話を通じた自己の省察:「じぶん観察シート」に基づく他者との意見交換を通じて、自身の興味・関心や価値観を多角的に見つめ直し、自己理解を深める。
- 探究テーマのキーワード探索(マインドマップ作成):マインドマップの手法を用いて自身の興味・関心等を広げ・整理し、今後の探究活動に向けたテーマ候補となるキーワードを見出すことができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第2回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:
 - 探究シート 第2回
 - 課題シート
- 参考・引用文献:
 - 小泉令三・山田洋平(2011)『子どもの人間関係能力を育てるSEL-8S② 社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編』ミネルヴァ書房

- 坂野公信監修・日本学校グループワーク・トレーニング研究会著(2016)『改訂 学校グループワーク・トレーニング』図書文化
- 登本洋子・伊藤史織・後藤芳文(2023)『改訂版 学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部
- トニー・ブザン著・近田美季子監訳(2008)『マインドマップ超入門―トニー・ブザン天才養成講座①』ディスカヴァー・トゥエンティワン

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	① 本時の流れの説明 スライドに基づき、本時の全体の流れ((1)アイスブレイク、(2)本時の活動について[じぶん観察シート共有、マインドマップ作成])を確認する。	生徒が本時の見通しを持って活動に取り組めるよう、提示を簡潔に行う。
10分	② アイスブレイクの説明・導入 スライドを用いて、以下の説明を聞き、配布物を確認する。 ・活動のねらい(人の話を集中して聞くこと、分からないことは質問することの大切さに気づく) ・聞き方のポイント「梅のかさ」(【う】うなずく、【め】目を見る、【か】体を向ける、【さ】最後まで聞く) ・「探究シート」「課題シート」の受け取り ・設定(「あなたがたは有名な建築家です」とルール(質問一切不可、私語不可、メモOK)の説明	・「梅のかさ」を意識して人の話を聞く姿勢を持たせる。 ・教員は設定文・指示文を丁寧にそのまま読み上げ、ルール(質問不可・私語不可)を徹底させる。
10分	③ アイスブレイク(課題1)の実践 教員の指示(①4つの部屋[居間、台所、トイレ、風呂]と押し入れ、②居間、③台所、④トイレ・風呂、⑤押し入れの配置とサイズ)を聞きながら、<課題シート>に設計図を描く。	・教員は指示文を正しくそのまま読み上げる。 ・質問を受け付けられない状態での生徒の様子(迷いや困り感)を観察する。
5分	④ 課題1の答え合わせと問いかけ 設計図の答え合わせを行った後、「描いていてどんなことに困りましたか？」という問いかけを受け、質問ができなかったことへの課題意識を持つ。	・答え合わせを行い、生徒から「質問をしたかった」などの発言を引き出す。 ・次は「質問あり」で課題2を行うことを伝える。
3分	⑤ アイスブレイク(課題2)の説明 別荘の設計図作成のルール(今回は手を挙げて質問可能、私語不可、メモOK)を聞く。	・質問のルール(挙手する)を徹底させる。 ・クラスメイトがする質問や回答にも耳を傾けるよう伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
10分	⑥ アイスブレイク(課題2)の実践 教員の指示(①玄関、②居間、③トイレ、④客室、⑤風呂・洗面所、⑥台所、⑦食堂、⑧ホール、⑨階段)を聞き、適宜挙手して質問しながら、＜課題2シート＞に設計図を描く。	・指示文を丁寧に読むとともに、手を挙げた生徒からの質問に的確に対応する。 ・他の生徒の質問を聞く姿勢も促す。
1分	⑦ 課題2の答え合わせ 完成した設計図の答え合わせを行う。	・課題1との比較により、質問ができることの有用性や描きやすさの違いを実感させる。
10分	休み時間	集中力を維持できるよう、しっかりと休憩をとらせる。
【2時限目】		
5分	⑧ アイスブレイクの振り返りと全体共有 ・「探究シート」の「1. アイスブレイク」の欄に記入する。 ・全体で「アイスブレイクをしてよかったことや気づいたこと」を発表・共有する。	・「分からないことは質問する」「メモをする」「集中して聞く」「他人の質問もしっかり聞く」などの発言を引き出す。 ・今回の気づきを今後の授業や講演会等の学校生活に活かすようまとめを行う。
20分	⑨ じぶん観察シート共有会 ・1分で2人1組(奇数の場合は3人1組)を作る。 ・互いの「じぶん観察シート」を交換し、2分間で読む。 ・2分間でお互いに気になったことを質問し合う(全2～3セット実施)。	・クラス全員がペアを作れるよう声を掛け合わせる。 ・質問の例(「どうして?」「どういうこと?」「そもそも?」「ほかには?」「どんな?」)を提示する。 ・注意事項(相手が不快になる質問はしない、答えたくないことは答えなくてよい)を必ず伝える。 ・進捗に応じて2セット等に調整し、沈黙しているペアには適宜フォローを行う。
5分	⑩ じぶん観察シート共有会の振り返り 「探究シート」の「2. 本時の活動について」の欄に、意見交換を通じて気づいたことを記入する。	・他者からの質問や視点によって気づいた自身の側面や課題を整理させる。
1分	⑪ 前回のおさらい・1年の流れの確認 「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加や、1年間の探究プロセスの流れを再確認する。	・探究活動の全体像や目的(レポート作成、ポスターセッション等)を改めて捉え直させ、見通しを持たせる。
3分	⑫ マインドマップの説明 スライドに基づき、テーマ探究の手法としての「マインドマップ」の書き方を把握する。 ・「キーワード」と「キーイメージ」で描くこと ・メインブランチ(「興味・関心」「好きなこと」「得意なこと」「これからしたいこと」「大切にしていること」)の設定	・「じぶん観察シート」の質問項目がメインブランチに対応していることを伝える。 ・「ごちゃごちゃになることを恐れず気楽に書く」「色や絵を使う」ことを促し、作業のハードルを下げる。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	・「じぶん観察シート」を参考にしたサブブランチ(連想する単語や絵)の広げ方 ・書き方のポイント(多色使用、曲線ブランチ、文字は水平など)	
20分	⑬ マインドマップ作成 色鉛筆(5色以上)や「じぶん観察シート」を活用し、自身の興味関心を広げるマインドマップを作成する。	・机間巡視を行い、ブランチが伸ばせない生徒には「じぶん観察シート」や共有会でのやり取りを振り返るよう個別に声掛け・サポートを行う。
1分	⑭ 次回の予告・連絡・回収 ・次回もマインドマップの続きを行うことを確認する。 ・「課題シート」と「マインドマップ」は『探究ファイル』に入れるよう指示を聞く。 ・「じぶん観察シート」と「探究シート」を番号順に提出する。	・「課題シート」と「マインドマップ」は回収せず、『探究ファイル』に大切に保管させる。 ・「じぶん観察シート」と「探究シート」を番号順に回収する。 ・本日『探究ファイル』を忘れた生徒には次回必ず持参するよう指導する。